

科目名	がん薬物療法学特論
担当者氏名	立松 三千子(TATEMATSU Michiko)
準備学習	がん治療の基礎知識を学んでいること。
授業の概要と目的	臨床現場においてチーム医療の一員として薬物療法に関わるためには、画像診断、臨床検査値、バイタルなど幅広い知識が必要である。また、薬理学や抗がん剤治療・支持療法に関する基礎知識も重要である。この特論では、これらを習得させることを目標としている。
到達目標	臨床現場において、薬理学の知識と患者の検査データ等を総合的に判断し、適切な薬物療法の提案ができる。

授業内容	実施日	講義室	【項目欄】	【内容欄】	※形態欄について				
					講義	演習	実験	形態※	備考
授業内容	9/24(土) 1限	新1号館 303教室	1 抗がん剤の臨床薬理(1) 担当:石川	抗がん剤の薬理の基礎と解説(1)	○			単	
	9/24(土) 2限		2 抗がん剤の臨床薬理(2) 担当:石川	抗がん剤の薬理の基礎と解説(2)	○			単	
	9/24(土) 3限		3 抗がん剤ミキシング 担当:石川	抗がん剤ミキシングの基礎と解説	○			単	
	10/1(土) 1限		4 抗がん剤の臨床試験 担当:山本	臨床試験の基礎と解説	○			単	
	10/1(土) 2限		5 臨床論文読解 担当:山本	臨床論文の基礎と解説	○			単	
	10/15(土) 1限		6 がんの病理診断・遺伝子診断(1) 担当:谷田部	病理診断・遺伝子診断の基礎と解説(1)	○			単	
	10/15(土) 2限		7 がんの病理診断・遺伝子診断(2) 担当:谷田部	病理診断・遺伝子診断の基礎と解説(2)	○			単	
	10/29(土) 1限		8 臨床統計学入門 担当:後藤	臨床統計学の基礎と解説	○			単	
	11/12(土) 1限		9 フィジカルアセスメント(1) 担当:永松	薬剤師によるフィジカルアセスメント	○	○		セ10・11	聴診器(あれば)、筆記用具
	11/12(土) 2限		10 フィジカルアセスメント(2) 担当:永松	がん治療におけるフィジカルアセスメント(演習を含む)	○	○		セ10・11	アナフィラキシーショックの処置について予習しておく
	11/19(土) 1限		11 がん診療におけるIVR 担当:佐藤	IVRの基礎と解説	○			単	
	11/19(土) 2限		12 画像診断 担当:佐藤	画像診断の基礎と解説	○			単	
	11/19(土) 3限		13 がん薬物療法 担当:立松	がん薬物療法の基礎と解説 がん薬物療法におけるチーム医療	○			単	
	11/26(土) 1限		14 支持療法(1) 担当:立松	支持療法の基礎と解説(1)	○			単	
	11/26(土) 2限		15 支持療法(2) 担当:立松	支持療法の基礎と解説(2)	○	○		単	

授業形態・方法	各分野の専門家によるオムニバス形式の講義、及び、演習		
参考資料文献等	【書籍名】	【著者】	【出版社】
	1 新臨床腫瘍学	臨床腫瘍学会	南江堂
	2 がん診療レジデントマニュアル	国立がん研究センター内科レジデント	医学書院
	3		
	4		
5			